

# カリキュラムをデザインする 単元配列表とは？

前号の「どうする？ どうやる？ カリキュラム・マネジメント」に、多くの反響をいただきました。「単元配列表で、どんなメリットが期待できるの？」「単元配列表は『深い学び』とつながるの？」「単元配列表の作成方法をくわしく教えてほしい」というご質問が多数届きました。そこで今回は、田村学先生に「単元配列表」について、改めてお話しさせていただきます。

**田村 学** (たむら まなぶ)

國學院大學人間開発部初等教育学科教授。新潟大学教育学部卒業後、小学校教諭などを経て、一昨年度まで文部科学省初等中等教育局視学官。現在は、生活科・総合的な学習の時間の実践、カリキュラムの研究に取り組んでいる。

## 単元配列表を作成するイメージ

国語科の年間指導計画												
国語	単元①	単元②	単元③	単元④	単元⑤	単元⑥	単元⑦	……	単元⑩			
社会科の年間指導計画												
社会	単元①	単元②	単元③	単元④	単元⑤	……	単元⑩					
理科の年間指導計画												
理科	単元①	単元②	単元③	単元④	……	単元⑩						

↓ 総合的な学習の時間を  
中核として配列した場合

1年間を見通した単元配列表												
各教科等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	単元①	単元②	単元③	単元④	単元⑤	単元⑥	単元⑦	……	単元⑩			
社会	単元①	単元②	単元③	単元④	単元⑤	……	単元⑩					
算数	単元①	単元②	単元③	単元④	単元⑤	……	単元⑩					
理科	単元①	単元②	単元③	単元④	……	単元⑩						
総合的な学習の時間	単元①	単元②	単元③	単元④	単元⑤	単元⑥	単元⑦	単元⑧	単元⑨	単元⑩		
特別活動	活動①	活動②	活動③	活動④	活動⑤	活動⑥	活動⑦	……	活動⑩			
道徳	時間①	時間②	時間③	時間④	時間⑤	……	時間⑩					
音楽	単元①	単元②	単元③	単元④	……	単元⑩						
図画	単元①	単元②	単元③	単元④	単元⑤	……	単元⑩					
体育	単元①	単元②	単元③	単元④	……	単元⑩						
経営	学級/学年	人をつなぐ	家庭/地域/企業	暮らしをつなぐ								

『カリキュラム・マネジメント入門』東洋館出版社(田村 学編著)より

## 単元配列表を作成すると どんなメリットがあるの？

前回、単元配列表を作成することで、教科間の関連が大きく俯瞰して見えるようになる。「授業をする先生にとっても見通しが立つことになる」と紹介しました。

教科ごとの年間指導計画を全部合体系せて、一枚の年間計画をつくるイメージをお伝えしたのですが、こうして一枚物にすると、さまざまに育つ資質・能力が、互いにつながって見えてきます(左図)。

たとえば、国語で学んだ表現するさまざまな力が、社会でも理科でも発揮されますし、総合的な学習の時間で役に立つこともあります。算数で学んだ統計のさまざまな方法が理科や社会で実際に使えるものになる、ということが全体として機能してきます。

いままでは、教科の範囲のなかで、教科の中でも小さな単元、ユニットの範囲でしか考えていなかったものが教科全体に広がり、他教科にも広がり、もつと例えば学年を越えて「活用」ということが連続していくことになりました。単元配列表を描くと、資質・能力

の「活用・発揮」が、カリキュラム上、具現されやすくなっているのです。

この「活用・発揮」が「深い学び」に向かう最大のポイントだ、というように考えればいいと思います。

## 「深い学び」と カリキュラム・デザイン

「単元配列表と『深い学び』の関係を示してほしい」という多くのご要望とともに、「そもそも『深い学び』とは何か」というご質問もいただきました。知識や技能がつながって、構造化され、より高度化していくようなイメージで「深い学び」を捉えるといいと思います。



カリキュラム・デザインによって「活用・発揮」を生み出すことができます。

たとえば、ここにはこんな魚がいて、こんな生き物がいて、こんな植物が生えていて、…ということがいろいろな関係でつながっていくと、「環境」というのは、お互いに支え合っている↓影響し合っている↓「共生」といった概念になるように、知識を構造化し、高度化していくことで「使える知識」になるといったイメージです。

そうした使える知識をつくるのが「深い学び」だとすると、「深い学び」を実現するために、「活用・発揮」が最大のポイントになります。

この「活用・発揮」をするうえで、単元配列表が有効です。単元配列表ができていると、カリキュラム上、「活用・発揮」が生まれやすくなる可能性があるということです。

これまでは先生方が無自覚のまま、感覚的に「活用・発揮」を生み出していたかもしれません。しかし、単元配列表を使い意図的に配列することができれば、「活用・発揮」の出現率が上がります。子どもたちのなかの「活用・発揮」する可能性が割合としても高くなるのです。

アクティブ・ラーニングはそれを授業の中でやりましょう、ということですが、授業中に「発表しましょう」「話し

合いましょう」ということは、すなわち「活用・発揮」です。

授業中の「活用・発揮」がアクティブ・ラーニングであり、カリキュラム上に「活用・発揮」を入れていくことが、カリキュラムのデザインということになると思います。

そうやって、どんどんシンプルに考えていけば、キーワードの関係性も整理されて理解できるのではないかと思います。

各教科等での学びが相互に関連づいたり、連動したりして「活用・発揮」されることを実現するために、単元配列表の作成が重要です。このとき最大のポイントとなるのは、「育成を目指す資質・能力」をもとにして配列を考

えることです。カリキュラムをデザインする際には、「育成を目指す資質・能力」の3つの柱「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を踏まえ、さらに実際の子どもの姿や実現可能性を視野に入れてデザインしていくことが欠かせません。

その際には、どちらの単元を先に行うかといった順序性の問題が生まれてきます。先に行われた単元で身についた資質・能力が、後から実施される単

元において「活用・発揮」されると考えデザインしていくことがポイントとなります。

各教科等で育成される資質・能力がどのようにつながり、関連づいていくかを想定して配列を行うことで「活用・発揮」することが実現しやすくなるのです。

## 単元配列表を つくるときのポイントは？

実際に単元を描いて配列する際、関係性を見始めると、いろいろなところでつながりが見つけられるようになります。線がいっぱいになる可能性があり



単元配列表を用い、意図的に配列することで、各教科等での学びが相互に関連づいたり、連動したりして「活用・発揮」の出現率を上げることが可能となる。

たくさん線の線が引かれると、今度は複雑になって混乱が生じ、かえって実現の可能性が下がってしまうかもしれません。

そこで、できるだけシンプルな線にしていく作業が必要だと思えます。

さまざまに出てくる線をシンプルにする1つのアイデアとして、**教科の中から中核になる教科を1つ選択する方法が考えられます。**

日本の教育課程上でいえば、低学年では生活科、3年生以上だと総合的な学習の時間を核にするのがいちばんシンプルでわかりやすいと思います。

たとえば、総合的な学習の時間は、いろいろな教科と関連づけたり、各教科の力を発揮したりする場でもあるので、総合的な学習の時間を中核に設けると無理なく実現できるでしょう。

**学校として育てたい  
資質・能力でつなぐ**

もちろん、学校によっては道徳を中核に置く場合もあるでしょうし、特別活動を中心と考えてもいいですし、言語能力に着目して国語を中核にするアイデアも出てくるでしょう。それは学校によって異なっていると思います。

線をたくさん引かないで絞り込むアイデアの2つ目は、何の線を引くかを決めることです。

「論理的思考力を育てたい」という学校であれば、「論理的思考力」に関するものを線でつないでいく、「表現力を大事にしたい」という学校では「表現力」に関する線を引いていく、といった具合に、**育成したい資質・能力に着目して、学校として育てたいものをつなぐ、といった絞り込みをする**と、山ほど考えられる線が絞り込まれてシンプルになっていくと思います。

さらに言えば、この線の中には、関係性のより顕著なもの、少し緩やかなものがあるはずですから、より重要なものをつないでいくことにすれば、フォーカスされていくでしょう。

「どの教科との関係を図ろうか」ということが各学校の編成原理をつくる話になりますし、「どの線を大事にしようか」というのが、育てたい子ども像と必ずリンクしてくる話になります。

自ずとグラウンド・デザインとも連動するでしょう。

こうしてカリキュラムを俯瞰し、全体が描けるようになると、授業が変わってくるのではないかと思います。

**ポイント①**  
中核になる教科を1つ選択する。

**ポイント②**  
学校で育成したい資質・能力を絞り込んでつなぐ。



# てんまる 2018

カリキュラム・  
マネジメントの  
第一歩

## 年間指導計画 作成機能

特許出願中

てんまる2018は、  
ぶんけいテストの付属ソフトです

教科書会社を選択するだけで、単元を自動配置します。  
実技教科や道徳の計画も簡単に作成できます。

POINT

重視したいキーワードを設定して  
単元を色分けできる!



色分けを参考にして、単元を入れかえたり時数を調整したりできます。

POINT

単元伸縮や単元移動は  
直感的なのでカリキュラムを  
練りやすい!



月、教科、キーワード…任意に焦点化した表を作成して、  
教科横断的に資質・能力のつながりが見られます。

POINT

シンプルな表を簡単に  
作れるので、忙しい中でも  
すべての先生がカリ・マネを意識できる!